

## 映像メディア表現での生徒の学びを考える

－映像をよむ×映像をつくる－

そん ちゃんて  
宣 昌大 (中学)

### I. はじめに

学校教育において生徒の表現手段として映像メディア制作は身近なものであろう。なぜなら、GIGA スクール構想による学校現場でのICT機器の導入および利活用により、写真や動画撮影はそれ以前に比べ、授業でも取り入れることが容易となったからである。しかし、映像メディア表現について、現行の中学校学習指導要領美術編の「指導計画の作成と内容の扱い」では、漫画やイラストレーションなどと共に表現方法として学習機会を取り入れること<sup>1)</sup>や、美術の表現の幅を広げるための活用<sup>2)</sup>を促すに留まっている。

このような現状から、生徒の身のまわりに溢れる映像メディア、特にビデオによる表現について、鑑賞も含め学習する機会が必要であると考えます。

### II. 授業実践の記録

#### (1) 授業実践の概要

本題材は、「時間の経過や動きといった映像表現の特徴を理解し、構成や撮影の工夫について考えることができる」ことを目標とし、鑑賞活動から物語の構成やカメラワークを、表現活動では主題をもとに物語の構成を考え、カメラワークや編集作業によって作品を制作する。

#### (2) 題材の目標

本題材の目標のもと、表 1 は三観点の育みたい資質・能力をまとめたものである。

表 1 三観点の育みたい資質・能力

知識及び技能
<p><b>知</b> 映像表現の構成要素（時間の経過や動き、構図や音響など）の性質及びそれらが感情にもたらす効果などを理解できるようにする。</p> <p><b>技</b> 撮影方法（カメラワーク）や編集方法（カット割りや音響など）から制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すことができるようにする。</p>

#### 思考力、判断力、表現力等

**発** 表現したいテーマに応じた物語や撮影方法を考え、表現の構想を練ることができるようにする。

**鑑** 作品の鑑賞、分析を通して、構成や撮影方法の意図を読み取ったり、批評的に捉えたりすることで、作品の見方や感じ方を深めることができるようにする。

#### 学びに向かう力、人間性等

**態表 態鑑** 映像表現を通して、主体的に身近な季節の変化や場面などを深く見つめて感じ取ったことや考えたことなどを基に、表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組む態度を養う。

#### (3) 生徒観、題材観、指導観

生徒観について、映像メディア表現の既習事項として、第 1 学年 3 学期に映像作品の鑑賞と表現活動に取り組んでいる。鑑賞活動では、国語科にて新海誠監督「言の葉の庭」を用い、登場人物の立ち位置やピン送りといったカメラワークなどから、心情表現の構造的な読みを学習している。表現活動では、画角と構図の違いやカメラワーク（ローポジション、なめる）を学んだ後、映画監督の山崎達彦氏より「時候の挨拶」をテーマにした約 30 秒間の作品制作とその講評を受けている。テーマをもとにした作品の構成（物語性、クライマックスへの流れ）や撮影技法（カメラワーク）、編集方法（カット割りや音響）といった一連の制作手順は学習済みである。ただし、制作した作品自体について、物語の構成やカメラワークに課題が残った。本題材では、これらの課題に対し、①鑑賞活動から、物語の構成とそれを表すためのカメラワークを理解する。②表現活動では、主題をもとに物語の構成とカメラワークについて考えられることを目指す。

上記より題材観として、「季節の移ろい」という一貫したテーマのもと、鑑賞活動を経て表現活動に取り組むことで、物語の構成や撮影技法、編集方法といった作品制作に関する諸要素を知り、制作へ活かすことが期待できる。鑑賞活動では、JR東海 CM

「そうだ京都、行こう」の 2025 年「初夏編」にて、晩春から初夏への移ろいを物語の構成とカメラワークの視点から読み解く。次に、表現活動では制作期間が 9 月から 10 月のため晩夏から初秋にかけての「季節の移ろい」をテーマに、ペアで考えた物語をもとに構成を考え、撮影技法を工夫して映像表現を行う。

指導観として、映像作品の鑑賞活動では、その物語性とカメラワークによる表現に着目し、構造的な読みを深める。表現活動では、フィックス（カメラを三脚に固定し、画面を動かさない）も紹介し、視点だけでなく画面内の動きによる表現についても気づかせる。また、本校の今年度の研究テーマである「ホンモノ体験」として、山崎達壘氏から完成作品の講評を受け、改めて制作した作品の構造や撮影方法を振り返る機会とする。

#### （4）題材の評価規準と指導の手立て

本題材の三観点の評価規準と指導の手立て（表 2）。なお、表内の評価規準については以下のように表す。

知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準

発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準

技＝「知識・技能」の技術に関する評価規準

鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準

態表＝表現活動での「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す

態鑑＝鑑賞活動での「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す

表 2 三観点の評価規準と指導の手立て

知識・技能	
評価規準	<p>知 映像表現の構成要素を理解し、「季節の移ろい」を表すための表現活動や作品鑑賞に活用している。</p> <p>技 撮影技法や編集方法を理解し、「季節の移ろい」を表すための制作に活用している。</p>
十分満足と判断できる状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像表現の構成要素を理解し、より具体的に表現活動へ活用している。</li> <li>映像表現の構成要素を理解し、より具体的に作品鑑賞へ活用している。</li> <li>「季節の移ろい」を表すため撮影技法や編集方法を理解し、制作へ効果的に活用している。</li> </ul>

努力を要する状況への手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語に合わせてカットごとの構図やカメラワークを試すよう促す。</li> <li>カットごとの構図やカメラワークに注目して鑑賞するよう促す。</li> <li>「カメラワークの紹介動画」や「カメラワーク一覧」をもとに、表現意図に合ったカメラワークを試すよう促す。</li> </ul>
<b>思考・判断・表現</b>	
評価規準	<p>発 「季節の移ろい」を表すための物語の構成や撮影方法を考え、表現の構想を練ろうとしている。</p> <p>鑑 作品の鑑賞、分析を通して、構成や撮影方法の意図を読み取ったり、批評的に捉えようとしている。</p>
十分満足と判断できる状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「季節の移ろい」を意図した構図や前後のカットの関係性を考え、構成や編集方法の工夫をしている。</li> <li>作品の鑑賞、分析を通して、構成や技法の意図を深く読み取り、批評的に捉えている。</li> </ul>
努力を要する状況への手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとの構図を意識したカットを時系列に並べるだけでなく、前後の関係性も考えるよう促す。</li> <li>「鑑賞ワークシート」でカットごとの構図とカメラワークの関係性、その並び方などに注目することを促す。</li> </ul>
<b>主体的に学習に取り組む</b>	
評価規準	<p>態表 態鑑</p> <p>映像表現を通して、主体的に身近な季節の変化や場面などを深く見つめて感じ取ったことや考えたことなどを基に、表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
十分満足と判断できる状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像表現を通して、身近な季節の変化や場面などを深くみつめ、自分なりの見方や感じ方を明確にもち、それを表現及び鑑賞活動に活かそうとしている。</li> </ul>
努力を要する状況への手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>「季節の移ろい」への意図を振り返り、必要であれば追撮、再撮、再編集を促す。</li> </ul>

#### （5）準備物

本題材の準備物は以下のとおりである。

撮影用カメラ（iPad mini）、編集用アプリ（iMovie）、

三脚、「『そうだ京都、行こう』鑑賞シート」、「『そうだ京都、行こう』分析シート」、「テーマ決めシート」、「絵コンテワークシート（絵コンテ版、フリースタイル版）」、「作品解説シート」、「講評感想シート」、「『それぞれの音色』鑑賞シート」、「『それぞれの音色』分析シート」

（6）題材の指導計画

本題材は全 9 時の指導計画である（表 3）。教育研究会では、第 2 次の第 7 時を授業公開した。

表 3 題材の指導計画（全 9 時）

次	時	◆学習のめあて ・学習内容
第 1 次	1	◆季節の変化を表す方法について考えることができる 『映像をよむ』① ・JR 東海 CM「そうだ京都、いこう」シリーズ「初夏」編（30 秒、2025 年）を、「『そうだ京都、行こう』鑑賞シート」をもとに、“季節を映像でどのように表現しているか”、“なぜこのカメラワークなのか”の視点で視聴する。
	2	◆季節の変化を表す方法について分析することができる 『映像をよむ』② ・前時 CM の構造を「『そうだ京都、行こう』鑑賞シート」を用いて構造分析をする。 ・「『そうだ京都、行こう』分析ワークシート」に分析結果を記入する。 『映像をつくる』① ・次回の宿題として、身のまわりの「季節のうつろい」をみつけ、その特徴をもとに作品テーマを考え、「テーマ決めシート」へ記入する。
	3	◆表現したいテーマに応じた物語や撮影方法を考えることができる 『映像をよむ』③ ・前時の「『そうだ京都、行こう』分析シート」から考察した内容を共有する。 『映像をつくる』② ・前時の宿題内容をロイロノートで共有し、他者のものも参考にしながら、ペアで作品テーマを考える。 ・テーマをもとに、「絵コンテワークシート」を用いて物語を考える。 ※絵コンテ用の枠があるものと、枠がなく文字でもイラストでも考えられるものから、生徒が使いやすい方を選ぶ。

第 2 次	4	◆表現したいテーマに応じた物語や撮影方法を考えることができる 『映像をつくる』③ ・物語をもとに必要なカットの撮影をする。 ・撮影した素材をもとに編集をする。
	5	◆表現したいテーマに応じた物語や撮影方法を考えることができる 『映像をつくる』④ ・（前半）撮影、編集をする。 ・（後半）他のペアと現段階の作品を相互鑑賞し批評し合う。
	6	◆表現したいテーマに応じた物語や撮影方法を考えることができる 『映像をつくる』⑤ ・前時の相互鑑賞をもとに、再撮、追撮、再編集をし、作品を完成させる。 ・「作品解説シート」へ、構成内容やカメラワークの工夫について記入する。
第 3 次	7（本時）	◆作品の講評から自分たちの作品の構成や編集を振り返ることができる 『映像をつくる』⑥ ・映画監督の山崎達彦氏より、ひと作品ずつの上映と約 1 分間の講評を受ける。 ・「講評感想シート」で、自分の作品の構成や表現の工夫について振り返る。
	8	◆映像表現の構成要素（時間の経過や動き、構図や音響など）をもとに分析することができる 『映像をよむ』④ ・大塚製菓 CM「それぞれの音色」編（120 秒、2024 年）を視聴し、「『それぞれの音色』鑑賞シート」をもとに構造分析をする。 ・分析内容を「『それぞれの音色』分析シート」に分析結果を記入する。
	9	◆映像表現の構成要素（時間の経過や動き、構図や音響など）をもとに分析することができる 『映像をよむ』⑤ ・前時の「『それぞれの音色』分析シート」から考察した内容を共有する。

（7）教育研究会当日の本時の流れ

本時の授業計画は表 4 の通りである。評価規準として、思考・判断・表現は、「季節の移ろい」を表すため物語の構成や撮影方法について振り返っている。主体的に学習に取り組む態度は、映像表現を通して主体的に身近な季節の変化や場面などを深く見つめて感じ取ったことや考えたことなどを基に表現活動を振り返ろうとしている。

表4 本時（7時）の授業計画

時間	◆本時のめあて・学習内容	指導上の留意点	評価方法【評価規準】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標を確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◆作品の講評から自分たちの作品の構成や編集を振り返ることができる</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の流れを確認する。</li> <li>ひと作品ずつ上映、約1分間の講評</li> <li>講評後に自分の作品を振り返る</li> <li>全講評後、振り返りをもとに監督への質問時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「季節の移ろい」をどのような工夫で表現しているか、という視点で鑑賞を促す。</li> </ul>	
展開 40分	<p>[展開①] (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロイロノート「講評鑑賞シート」を配信。</li> <li>全18作品について、映画監督の山崎達壘氏より、ひと作品ずつの上映と約1分間の作品講評をする。</li> <li>講評をもとに制作した作品を振り返る。</li> </ul> <p>[展開②] (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「講評鑑賞シート」へ作品の振り返りを記入。</li> <li>「講評鑑賞シート」を用いて、講評から気づいたことを記入し、振り返る。</li> <li>気づいたことを制作ペアで交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「講評鑑賞シート」とメモ用紙も配布し、必要であれば講評内容のメモを促す。</li> <li>「講評感想シート」には、他の作品の講評も含め、今後の制作につながる振り返りを促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「講評感想シート」の記述内容。【発】【態表】</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「講評鑑賞シート」のデータ提出、またはプリントを班ごとに回収、提出する。</li> <li>次回、映像作品の鑑賞を行うことを予告する。</li> </ul>		

### Ⅲ. 研究協議会の記録

研究協議会の内容について以下に記す。

#### (1) 司会・授業者・指導助言者紹介

中学校授業者 本校教諭 宣 昌大  
司会者 本校教諭 小石原 暉  
指導助言者 Film Education Lab 代表  
山崎 達壘 氏

#### (2) 研究協議の概要

協議時間は90分間。協議の流れは、授業者より本時に至るまでの授業構成について、JR東海CM「そうだ京都、行こう」を用いた映像鑑賞体験とその分析方法、授業者と指導助言者の対談形式での授業振り返り、質疑応答であった。また、参観者は4人ひとグループとし、協議中に参観者同士が対話できる時間を設けた。

#### (3) 質疑応答（各グループより）

##### 【評価について】

Q. 夏休みの課題で中学3年生へ「映像を撮る」課

題を出したが評価に困った。映像作品は要素が多く複雑なため、どこまでを「効果的に活用している」と判断すべきか迷い、実際の作品を前にすると評価の軸がぶれてしまった。どのような作品を「評価できる」と考えればいいのか、具体的な基準を知りたい。

A. 映像作品の評価では、完成度よりも「生徒がどれだけ明確な意図を持って制作したか」を重視します。作品そのものだけで判断せず、制作途中の活動の様子や完成後の振り返りを通して、何を表現したかったのか（構成やカメラワークから）、どのように表現したかったのか、“思考の痕跡”を確認することで表現意図の評価軸としています。

##### 【授業化について】

Q. 授業化する上で、どこに焦点を当てて見ればよいか悩む。この授業は非常に丁寧で、生徒が活動しやすいステップを工夫している印象だが、週1時間の授業で9～10時間を確保するのは現実的ではない。短縮版（2～3時間程度）や、

コロナ禍の要素を活かした形で展開する案はあるか。

- A. 授業全体は9時間構成だが、そのうち制作に6時間、鑑賞に前後2時間ずつを充てており、「鑑賞→制作→鑑賞」の構成で展開しています。比較的長い時間数を要する授業の良さは、表現と鑑賞を行き来しながら生徒が自己調整的に学びを深めていく点にあります。ただし、学校によっては短時間版（2コマ完結など）での実施も可能です。監督自身も、通常は2コマで「撮影＋編集」を行うワークショップ形式を採用しています。
- Q. 長期間の授業は高度で素晴らしいが、他の学校で取り入れるにはハードルが高い。どのようにすれば、多くの先生方が実践しやすい形になるだろうか。
- A. 今回の実践は研究的な試み（チャレンジ）として長期間で行いました。その上で「自分たちの目の前の生徒、環境に合わせて再構成すること」が重要かと考えます。この授業が“F1マシン”であれば、各校の先生方がそれをファミリーカーや荷台の大きいより荷物を運べるワンボックス車など、“自校仕様の車”にフィードバックしてほしいです。また料理に例えるなら、授業の素材・レシピは共通でも、各現場でどう味付けをして、生徒にとって美味しい、栄養のあるものにするかが教育実践の鍵となるでしょう。今回の公開授業は、その調理法を考えきっかけとなることを目的としています。

#### IV. 引用・参考文献

- 1) 文部科学省, 2019, 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編』, 日本文教出版, p. 39
- 2) 同上, pp. 131-132
- 3) 山崎達壘・平井聡一郎, 2023, 『動画・映像制作が創るクリエイティブな学び～映像表現を活用した小中高「探究学習」』, インプレス